# ２００７年　四　季　折　々

Monthly Mail 四季 Mutsu　&　思いつくまま

## 神戸で　思いつくまま　2007 【6】　もくじ

*From Kobe*


1.　2007 年 １月　きままなひとりごと　2007.1.25.
2.　「発掘された日本列島 2006」展 大阪　2007.1.17
3.　「縄文時代が教科書から消えつつある」にぴっくり　2007.3.5.
4.　「兵庫」の鎖　-「兵庫鎖」を調べていて-　2007.4.15.
　兵庫鎖」・「兵庫」のルーツとゴム輪など・知らないことが次々と
5.　「この春　風来坊で感じた地方の疲弊　2007.6.1.
　地方格差・公共交通の崩壊がすすんでいます
　そして　中央では絶対見えないほころびが・・・　」
6.　「８月　広島で感じたこと」　2007.8.25.
　風化させてはならないのは　何　なんでしょうか
7.　「この夏であった不思議な石」　2007.8.25.
　「カンカン石」と呼ばれるサヌカイトと蛇紋岩

8.　この秋　感激したこと　おもいつくまま　2007.12.1.
　1.　エジプト　ツタンカーメンの鉄につながるかも???
　たたらのルーツである塊錬鉄
　2. 月面探査衛星「かぐや」の撮影した「三日月の地球」に感激
　3. 大阪の西の守り　四層の天守閣と３層櫓の素晴らしい尼崎城の姿(復元模型)

# 四季折々 Mutsu　思いつくまま 2007　from Kobe

## 1. 2007年1月 きままな ひとりごと　2007.1.25.

**アメリカの医療について**　テレビをみていて　その厳しさ・高額請求に本当にびっくりである。
ニューオルリーンズの現実を見聞きして、アメリカの弱さを実際にはっきりみた記憶の後だけになおさらである。
病院に入ったら、全財産をはたかねばならぬし、救急車に乗るとタクシー並みの高料金。それぞれの処置にみな費用がかかる。現実の問題として　病気にもかかれない競争社会の厳しさにびっくり・・・・。
あまりにも　通常過ぎて知らなかった健康保険のありがたさ　身にしみました。
　だって　このごろ　薬をもらうたびにもらう領収書　負担が増えたとはいえ、3割本人負担のありがたさ　全額負担に計算しなおして　みる額の多さ　こんなに気安く医療の世話になれないだろうと・・・・・・・。
　でも　日本でも　老人医療・高齢化社会の現実が次々とアメリカ型に推進されてゆくことへの不安は計り知れない。

**最近話題 の「 ホワイトカラーエグゼプション」**
　(一定以上の年収のホワイトカラーの時間外賃金を管理職と同じ用ように払わない)
これを推進する人たちの言葉に日本の社会の病根を見たような気がして腹がたって　仕方なし。
この制度　財界のトップがTVで語って言うには
　「アメリカではこの層に入った人は管理職の準備期間としてみんなこれを喜ぶ。それが日本では理解されない」と。
　本当に　そう思っているのだろうか・・・
　日本でこれを信じている人まずいない。　かならず裏がある。
　だって　この言葉の裏にすぐ「国際競争力・コスト低減」の言葉が見え隠れする。
　少し前の「偽装請負・非正社員」の問題にしても、上記の話を語った財界トップの会社が、実に多くダブっている。
　名前をかえ　形を変えて　今も進行中。
　しぶしぶ　認めた後の言葉が　「みんな　やっている。人材派遣会社が・・・下請けが・・・・。」
　「会社が生き残るための『国際競争力・コスト低減』のため」なのである。
**そもそもよく使われる「会社が生き残るため」とは　何なのか**
「働く人たちの幸福のため　仲間みんなの幸福のため」の言葉が返ってくるが、会社で働く人の生活を奪い、働く人の幸福を奪って「会社が生き残る」。　この目的が「働くひとたちの幸福のため」なのである。　どこかおかしい。
「働く人たち」の言葉の中身を理解せず、言葉だけが独り歩きする。
この「働く人たち」のことばもあいまい。「社会」全体の仲間を意識するのでなく、往々にして「狭い範囲の仲間」なのである。 自ら手を下すことのない劇場型演技の中で、目的と手段のすり替えがこれほどひどい時代はなく、それが　見えていることにも気づいていない・・・・・。
　国際競争力・IT社会を口にする人たちのアメリカ型の市場主義一辺倒の競争社会の厳しさと社会の不安定性は、もうアメリカを除く全世界で瓦解し始めているのに　まだ　それを推し進めるのか・・・
アメリカでも気がついているというのに・・・・
**ワーキングプアーの広がり・いじめ・差別・教育・労働・品質等々耳にする施策**を聞くと本当に腹が立つ。
そして　心地よい言葉に酔い、中身を理解せずに人のみを頼りにする。
まったく　中身のない言葉主義　その場さえつくろえば　あとはどのようにでもなる主義の横行は目に余る。
以前はそれをフォローする思いとスタッフがいたのですが、今は　それすら　忘れられている。
今は一丁上がりのせつな主義。　むしろ　「どこか　なにか」を血祭りにあげて・・・・の思惑も見え隠れ。
IT・マスコミを使えば　すぐなのである。　こんなIT・グローバル社会は真っ平である。
かつて、重厚長大の産業が社会を変えた時代・まだディジタルが進まぬアナログの時代があった。
今は時代遅れの悪の元凶というが、その社会の中にあって「一億総中流」を作り上げた社会の奥行きの深さを今一度見直してもよいのではないかと思っている。

「発展途上国にあわせて、その国の人件費コストに合わせて競争しようとする社会の仕組み」が今の偽装・品質・格差など社会矛盾の元凶ではないか ??? 発展途上国の生き方を認めたうえで、その時代をすでに通り過ぎた社会の知恵を・・・・・・

**「百年を生き抜いたカンパニー」がある。**

それらの会社に共通するのは時代・社会の変化に対応しながらも「支えとなる理念をみんなで　共有して　歩む」その姿勢の中にあったという。

決して　セツナではない時代・歴史の視点が今ほど必要な時代はないと思う。

そんなことを思い浮かべている時に　原子力・トラックから　ストーブ・ガス湯沸器　そして　食品　と次々に明らかになる品質問題とその無責任なリーダーの群れ。 そもそも　品質管理のベースがあり、認定・認証システムがあるはずなのに・・・・・。

「ものづくり」にはこれらのシステムではできない業・知恵の世界があり、それを伝承してゆくシステムがあった。

それが会社を支える理念かもしれない。 それらを「無駄」として切り捨ててきた「手をくだしたことのないリーダー」層。

社会が高度化・ソフト化してゆく中で、どんどんこの種の層が増えている。

そのどんでんがえしが、今始まっているのか・・・・

それを防ぐのが　セスメント・認証制度なのであるが、それをも理解できないリーダー層が引っ張る社会。

また、認証した人たちは　今何を見据えているのだろうか・・・

きっちり　アセスメントできないから、もうひとつ　別の組織を作るという。

いかにもせつな的で　必ず　どちらも　もっと弱くなる

今一度「百年を生き抜く」知恵を考えねば・・・・

教育で教えねばならぬのは、手段・マニュアルではなく、知恵・知識とともに　経験・実践アプローチで養う理念・感度・洞察力などではないか‥‥。　受験勉強だって　結局　理解の中身はそんなところだったように思う。

刹那的な付け焼刃では　物事は進まない。

「生かされているすべてが一家族。　一人の痛みがみんなの痛み。

ともに生きる。　ひとりひとり自らが　手をかそう　」

本当に言うは易く、行うは難し。

頭の中には　しっかり入れておかねばならないと思っている。

2007.1.25.　　By　Mutsu Nakanishi

## 2. 「発掘された日本列島 2006」展大阪　を見学　　2007.1.17.

「古代の鉄から見た古代・日本の成立ち」　「鉄が日本にもたらしたもの」に惹かれています

日本だけでは解けない謎　朝鮮半島・大陸の鉄にも目が向いています

東京を皮切りに昨年 6 月　東京をスタートに　日本各地を回っていた文化庁主催「発掘された日本列島 2006」展がやっと終わりの大阪にやってきて、堺市の弥生博物館で開催。また、それに合わせてその地域展「河内湖周辺に定着した渡来人-5 世紀の渡来人の足跡-」展が南河内　河南町　近つ飛鳥博物館で開催。

2006 年は甲斐　茅が岳山ろくで縄文の環状集落がそっくりそのまま出土した梅ノ木遺跡や大和王権が確立してゆく過程に新しい知見を入れた九州の古墳や古代政権の地方経営の先端を担ったと考えられる製鉄遺跡群などが次々と発掘調査され、新しい発見があいつぎました。 また加速器年代測定法もその精度が随分論議され、弥生・縄文の時代感を変えてゆく役割を果たす武器となりだしています。

発行された新発見考古学速報に興味津々で見入り、遺跡現地にでかけ

たり、資料をおくってもらったり。　　発掘された日本列島 2006」展 大阪の紹介新聞記事

興味津々で待ちかねた「発掘された日本列島 2006」展に古代史の仲間たちと 1 月 17 日に出かけました。

また、地域展の 5 世紀は日本で製鉄が始まる時で、朝鮮半島から数々の渡来人がやってきて、数々の技術が伝えられ、大和王権による日本統一の骨格が作られてゆく時であり、その中心が大和・河内。

この時代の鉄を知りたくて　通いましたが、まだ　わからぬことだらけ。

　教えてもらいたいこと数々。　仲間もみんなそれぞれ自分のテーマ持っている人たちばかり、近つ飛鳥博物館・弥生博物館に丸一日　いろいろなことを教えてもらいました。

「発掘された日本列島 2006」展　2006 年主要発掘・発見概要　　「発掘された日本列島 2006」新考古学速報より

また　ゆっくりまとめますが、それにしても古代史と「鉄」とが結びついていることひしひしです。

「なんでも　鉄にむすびつけるなあ・・・・・」と笑われるのですが、その時代　時代が見えてきて面白いです。

「発掘された日本列島展」で知ったことなどまた機会を作ってまとめたいですが、知ったことなど簡単に記します。

### 1.　須恵器が焼かれた窯に「粉砕された鉄鉱石・砂鉄が入れられ、製鉄が始まった兆候はないか・・・」

初期須恵器（豊中市 利倉西遺跡出土）

大陸・朝鮮半島から　渡来人たちによって、4・5 世紀頃日本に伝来した須恵器。

今までの土器に比べ　1000℃を超える高温で焼かれ、土の中に含まれる鉄が還元され、表面肌が黒くなっている須恵器。 少なくとも　1000℃以上の高温が得られなければ、鉄精錬の反応がすすまず、製錬が行われない製鉄。

1000℃以上で焼かれる須恵器の窯は製鉄には魅力で、たたら製鉄が行われる前の段階で何らかの役割を果たしていたのではないかと考えていましたが・・・・・。

河内の須恵器の窯の発掘調査に何度も携わられた藤田近つ飛鳥副館長にそっくりそのまま質問をぶつけたのですが、　「窯の中の土は本当に細かく調べているがそんな痕跡はまったくない」と。

プレたたらとして　須恵器を焼いた穴窯の可能性はないようである。

砂鉄か細かい鉄鉱石粉が出てきてはいないか　出石や千葉で大事に保管されて見つかった砂鉄の粉の使い方では・・・とも考えていたのですが、はずれでした。

### 2.　河内はいち早く日本に馬が持ち込まれた地　馬は高句麗など朝鮮半島北方の文化

4 世紀　日本には馬がいなかった。 馬は 5 世紀頃朝鮮半島から日本に持ち込まれました。

そこから　日本の馬の文化が始まります。 馬とともに　朝鮮半島北の高句麗・新羅の新しい鉄の文化が伝わったのでは・・・・・・・

河内は渡来人の郷。背後に生駒の山並み　前方には河内湖。その湖と生駒山にはさまれた低い丘陵地の現在の四條畷一体は「牧」　馬が放牧されていたという。

この北河内の山裾は物部氏や泰氏と関係する伝承が残る渡来人の郷であり、大規模な製鉄遺跡　森製鉄遺跡とが重なり、河内の古墳からは馬具などの鉄製品とともに甲冑や武器が数多く出土している。新羅・高句麗の北方系の影響も見られるようだ。

新羅・高句麗は早くから高度な製鉄技術を有している。新羅・高句麗など北方系の新製鉄技術の到来が日本での製鉄開始にインパクトを与えたのか・・・ そういえば　ここにも物部氏が歩いた痕跡と重なる前方後方墳がある。

また、牧が発展したのは甲斐・信州であり、後世　ここには出雲四隅突出墳の原形ではないかと考えられる高句麗の積石墳が多数作られる。

日本の古代に大きな影響を与えた百済・南朝鮮諸国の影に隠れて　あまりよくわからぬ高句麗・新羅の痕跡が河内には色濃くあり、日本の鉄の歴史にも新しい道を開くかもしれません。

古墳時代の製塩土器って　知っていますか・・・・

塩釜で作られた濃縮塩水を小さな容器に入れ、乾燥して水分を飛ばしたもので、どこにでも　持運べる小型容器です。

馬が数多く飼育されると　馬に塩分をとらせねばならず、大量の塩が必要になる。

そんな　塩分を持ち運びが容易で馬に与えやすいように工夫されたのが製塩土器。 馬にやるときにはこの容器を割って与えたという。 河内からは馬の骨が多く出土しているが、製塩土器も数多く出土している。

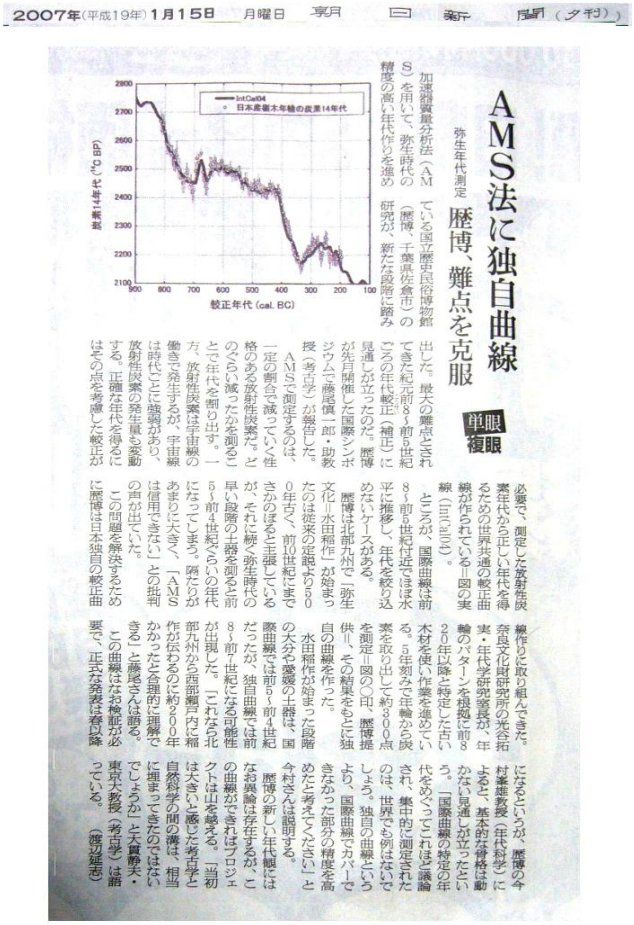
## 3.　国立歴史民俗博物館の加速器質量分析法による C14 年代分析法の精度がさらに高まっています

弥生の時代が 500 年遡れるとして　考古学年代表にも　弥生時代前期が BC300 年から　()付で(BC800 年)が記載されています。

まだまだ　反論を唱える人たちも多いようですが、精力的に検証が進められ、その信憑性・精度が随分高まってきました。

技術屋にとっては　正攻法の手法　時代を確定する精度のよい検量線をどう確定するかが、一番の課題と思っていましたが、本年 1 月 15 日の朝日新聞に新しい独自の年代曲線が策定され、一番問題となっていた BC10 世紀から BC5 世紀までの周辺の精度のよい検量線が提示され、あいまいさとともに指摘されてきた矛盾点もかなり、理解できるようになってきたといわれる。

技術屋には面白い議論でした。



2007年(平成19年)1月15日　月曜日　朝日新聞（夕刊）

# AMS法に独自曲線

## 弥生年代測定　歴博、難点を克服

単眼 複眼

加速器質量分析法（AMS）を用いて、弥生時代の精度の高い年代作りを進めている国立歴史民俗博物館（歴博、千葉県佐倉市）の研究が、新たな段階に踏み出した。最大の難点とされてきた紀元前8～前5世紀ごろの年代較正（補正）に見通しが立ったのだ。歴博が先月開催した国際シンポジウムで藤尾慎一郎・助教授（考古学）が報告した。

AMSで測定するのは、一定の割合で減っていく性格のある放射性炭素だ。どのくらい減ったかを測ることで年代を割り出す。一方、放射性炭素は宇宙線の働きで発生するが、宇宙線は時代によって強弱があり、放射性炭素の発生量も変動する。正確な年代を得るにはその点を考慮した較正が必要で、測定した放射性炭素年代から正しい年代を得るための世界共通の較正曲線（intcal04）。




ところが、国際曲線は前8～前5世紀付近でほぼ水平に推移し、年代を絞り込めないケースがある。

歴博は北部九州で、弥生文化＝水田稲作＝が始まったのは従来の定説より500年古く、前10世紀にまでさかのぼると主張している。それに縛（しばり）弥生時代の早い段階の土器を測ると前5～前4世紀ごろの年代になってしまう。隣たりがあまりに大きく、「AMSは信用できない」との批判の声が出ていた。

この問題を解決するために歴博は日本独自の較正曲線作りに取り組んできた。奈良文化財研究所の光谷拓実・年代学研究室長が、年輪のパターンを根拠に前820年以降と特定した古い木材を使い作業を進めている。5年刻みで年輪から炭素を取り出して約800点を測定＝図の○印、歴博提供＝、その結果をもとに独自の曲線を作った。

水田稲作が始まった段階の大分や鹿児島の土器は、国際曲線では前5～前4世紀だったが、独自曲線では前8～前7世紀になる可能性が出現した。「これなら北部九州から西部瀬戸内に稲作が伝わるのに約200年かかったと合理的に理解できる」と藤尾さんは語る。

この曲線はまだお検証が必要で、正式な発表は春以降になるというが、歴博の今村峯雄教授（年代科学）によると、基本的な骨格は動かない見通しが立ったという。「国際曲線の特定の年代をめぐって」これほど議論され、集中的に測定されたのは、世界でも例はないでしょう。独自の曲線というより、国際曲線にカバーできなかった部分の精度を高めたと考えてください」と今村さんは説明する。

歴博の新しい年代幅にはなお異論は存在するが、この曲線ができればプロジェクトは山を越える。当初は大きいと感じた考古学と自然科学の間の溝は、相当に埋まってきたのではないでしょうか」と大貫静夫・東京大教授（考古学）は語っている。（渡辺延志）

### 4.　8 世紀頃大和律令政権が地方経営の先端地で経営したと推測される製鉄遺跡が各地で発掘調査される

四国　今治　高橋小夜の谷 2 遺跡・新潟県柏崎　軽井川南製鉄遺跡・滋賀瀬田丘陵製鉄遺跡群
野路小野山遺跡・福島県原町金沢製鉄遺跡群に隣接する割田地区製鉄遺跡など

四国で初めて　製鉄遺跡が出土したと聞いて　今治にゆき、この高橋小夜の谷 2 遺跡の製鉄炉が畿内で改良モデル化された鉄アレイ型の製鉄炉であり、大和律令政権が地方経営の拠点地に築いた製鉄コンビナートだと聞きました。
聞いたときには　多くの製鉄炉が立ち並ぶ北九州　元岡製鉄遺跡群　福島原町金沢製鉄遺跡群は知っていましたが、まだ　越の製鉄コンビナートを知らず。
「ここが???　伊予国の製鉄コンビナート　今まで四国で製鉄炉が出土していなかったので　思い入れがつよすぎるのでは?????本当だろうか???」
　「ここに大和王権の製鉄コンビナートがおかれるなら、日本海側の東北や東国の備えとして越に大製鉄コンビナートがあるはず」と。
そして　柏崎軽井川南製鉄遺跡を知って　資料を送ってもらって　びっくり。
柏崎にも 8 世紀から 12 世紀にかけて 35 もの製鉄遺跡があり、8 世紀から 11 世紀にかけて　20 を超える製鉄炉が出土しています。そして　鉄アレイ型から足踏み鞴のある片アレイ型に進化して継続的に大量の鉄が生産。
北の蝦夷　西の大陸のみならず、日本海側の東日本　・南九州・瀬戸内の押さえなどのため、必要とされる大量の鉄器を生産する大製鉄コンビナートが形成されていたことが以前よりもまして　クリアーになってきました。

解決していない古代の鉄の歴史がびっしりです。また　出かけるところがまたふえました。
今年　もう少し「鉄から見た日本」が見えてくれば・・・と期待しています。
今治　高橋小夜の谷 2 製鉄遺跡で出合った愛媛大学村上先生は「製鉄遺跡は昔の生産設備の産業廃棄物」といわれましたが、いろんな製鉄遺跡が発見・発掘調査されるのはうれしいのですが、調査が終わり、記録・報告書ができると「産業廃棄物」として破壊されてしまうのが大半で、製鉄炉数基など良くてごく一部に限って保存されるのみ。
したがって、発掘調査されたときによく見ておかないと周囲の環境も含め、遺跡があったところそのものが、激変してしまいます。 早く暖かくなったら　出かけようと又うずうずです。

## 3.「 縄文時代が教科書から消えつつある 」に びっくり　2007. 3. 7.

大阪で開かれた青森三内丸山縄文の会「大阪縄文塾」で、小学校の社会科の教科書から　縄文時代を教える記述がどんどん減って　いまやほとんど記述がなくなっていると聞きました。
もうびっくりです。

学習指導要領での歴史学習に関する規定では、最初の部分が「農耕の始まり、古墳について調べ、大和朝廷による国土統一の様子が分かること」となっていて、農耕以前の時代の旧石器時代や縄文時代を扱輪なくてもよいと解釈されつつあるらしいのです。

日本人のルーツは弥生人　縄文人は異邦人と思っている人は特に関西では多いし、何か最大公約以外の少数は切り捨て・切捨て簡略にしてゆく最近の効率化重視の世相そのものに感じられます。

グローバリゼーション　市場万能のディジタル・効率主義が医療を荒廃させ、深刻な労働・社会問題をもたらしつつあると聞いたばかり。教育の局面にもすでにそんな方向が深く入り込んでいることにびっくりです。

「結果は歴史が語ってくれる」とよくいいますが、歴史とは幾世代もが蓄積してきた経験の賜物　その判断が極めて先を予告すること先を判断する指針を与えてくれることを知りながら、今　縄文を消し去ることの重さを考えないのか・・・・と憂鬱になってきます。

「世界文明にも匹敵する
　　日本が世界に誇る木の文化　縄文 」
「ストーンサークルや環状集落
　　そして　縄文の文化
　　日本人の心を映す縄文」
「穢れ・戦を知らなかった縄文」
「自然と強制してきた森の文化　縄文」等々

日本人のルーツと強く結びついている縄文時代を今の時代の都合でそっくり抜くことに不安を感じます。

今　三内丸山遺跡をはじめ数々の縄文遺跡が縄文のすばらしさと日本人がはぐくんできた文化・社会などとの関係を解き明かしつつある今。そして　また、地球環境・自然との共存が本当に必要になってきた今　縄文の知恵に学ばねばならぬ時代に本当に無謀としか言いようがない。

三内丸山縄文遺跡や青森の縄文の名品の数々を見た後だけに余計にさびしくなりました。

グローバリズムを口にする人たちの市場万能主義は本当に人を幸福にするとは思えない。

調和と共生の人間主義がないと・・・・・。

そして、それを可能とする「人間主義」「理念・倫理感」の醸成が今一番日本にかけているところと感じます。

せつな的な対応に危機感をますます強くします。

縄文の名品を見た後だけになおさらびっくりしました。

これらの名品をゆっくり見ていると　何か違った世界が見えてくると思いませんか・・・

2007.2.16.夜

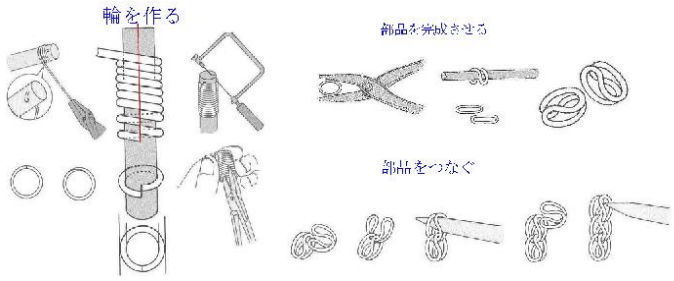
大阪縄文塾のあと　大阪の街を歩きながら

By　Mutsu　Nakanishi

# 4. 「兵庫」の鎖　-「兵庫鎖」を調べていて-　　2007.3.20.

「兵庫鎖」・「兵庫」のルーツとゴム輪にも・・・知らないことが次々と

先日　姫路の衣川良介氏から送っていただいた「夢通信」で、５−６世紀の朝鮮半島で盛んに製作され、日本の古墳の副葬品として出土する主に金製の耳飾りに使われている鎖のつなぎ方「ひしゃげてコの字型にした金輪に次の金輪を通してゆく鎖のつなぎ方」に「兵庫鎖」と言う名称があることを教えていただきました。
以前「黄金の国　新羅展」や「大伽耶文化展」などの展覧会で耳飾に繋がれたチェーンの素晴らしさやそのチェーンに繋がれる金輪の端面をロウ付け接合で精密にふたをされていることそして鎖の一つ一つの輪が実に精工で同じサイズにつながれて実に見事な鎖になっているのを見て、その接合や金属細工の技術の見事さにびっくりして見入ったことなど思い出しました。




鎖の輪の製作方法と　兵庫鎖のつなぎ方
衣川良介氏「夢通信」兵庫鎖を作るより
http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/yume/06121.pdf

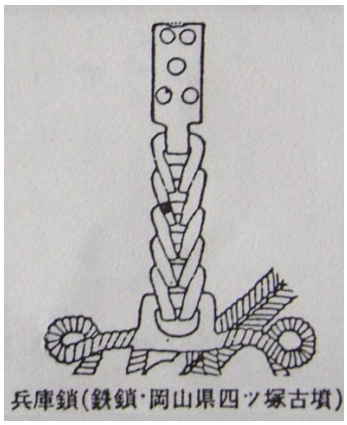
５−６世紀　朝鮮半島　伽耶や新羅の耳飾りなどに盛んに使われた兵庫鎖　「新羅展」図録より
５−６世紀　日本に朝鮮半島からもたらされた兵庫鎖のルーツ

「鎖」って　こんな風につくるのか・・・・と。
判ってみれば「なるほど」の実に見事な物づくりの技.
子どもの頃にゴムとび遊びのゴムひもやゴム動力船・飛行機「動力ひも」として、
輪ゴムに輪ゴムを「コの字」状に結び合わせた紐を作りましたが、まさにこれ。
（ゴムひもを作るのには　もう一種　輪ゴムに輪ゴムを結んでゆく方法もありました。）

> このゴム跳びに使うゴムひも　僕ら　関西では輪ゴムで作るものと思っていましたが、関東ではパンツの紐に通す白いゴムひもを使うのが主で　輪ゴムで作ることなどなかったという。今は　もう　そんな遊びもしなくなったのでしょうが、これにもびっくりでした。
> 輪ゴムを生産するメーカーが大阪で、ほかのところでは、大阪ほど簡単に輪ゴムが簡単に手に入らなかったのかも知れません。　そう思うと　今は何でもセロテープで「チョッ」と止めますが、昔は何でもゴム輪がかかっていて、すぐ輪ゴムがたまったものでしたね。

この鎖のつなぎ方に「兵庫鎖」などという名前があるとはまったく知りませんでしたが、古代からあるつなぎ方が連綿と続いてきたもので、5 世紀ごろ　朝鮮半島から伝来した素晴らしい技術。
このつなぎ方の起源を調べるとエジプトではすでに 4000 年前の金製品にこのつなぎ方があり、それが中国・朝鮮半島を経て日本に伝わった。

日本では　古代の耳飾りなどの金鎖のほか　馬の轡・鐙の引手の鉄鎖などが伝わってきて、その後　鎌倉時代以降には太刀の装飾飾りの鎖に非常によく使われた細工で「兵庫鎖太刀」が沢山製作されている。
日本に馬が伝わったのが、5 世紀といわれており、馬を日本にもたらした渡来人がこの鎖の技術をいっしょに持ち込んだのかもしれない。古くから新羅・朝鮮半島にすごい金属加工技術があると　前々から強い印象がありました。




鉄鎖の一例

古代の耳飾りや刀の装飾飾りに使われた兵庫鎖

## ■「兵庫鎖」の「兵庫」とは・・・・

3 月　神戸の埋蔵文化センターに行くと　古墳時代の舞子古墳群　毘沙門１号墳から出土した鉄製の兵庫鎖が展示されているのを見て、「神戸と関係するのか????」と。　「神戸三宮近くの市街地幾田川の川岸に古代 7 世紀初頭から続く飛鳥・奈良時代の鍛冶集落跡「二宮製鉄遺跡」があり、製作された数多くの武器や農耕具が出土している。」

神戸の市街地に飛鳥・奈良時代の鍛冶工房集落　「二宮遺跡」を訪ねて

http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/iron3/nnmykb01.htm

この神戸の鍛冶工房と「兵庫鎖の兵庫」つながれば　神戸が楽しくなる」と勝手に考えて　埋蔵文化センタで聞いたり、インターネット調べたり。結果的には　僕の推理は否定されたのですが、「兵庫」の色々のことが判って、こだわって調べてみることの面白さを知りました。

毘沙門１号墳出土　鉄製の兵庫鎖
神戸市埋蔵文化財センターで
どこがどうつながっているのか
いまだによくわからない

### 1.　兵庫鎖の名称「兵庫」のルーツ

5 世紀朝鮮半島から　もたらされた兵庫鎖の技術が古代大和王権の武器を一手に生産・管理を職としていた「兵庫寮」に伝わったことから、「兵庫鎖」の名前が起こる。古代　律令政治の根幹として中央官制が整備されていったが、701 年制定された大宝律令で集大成され、さらに 10 世紀の延喜式に引き継がれてゆく。中央官制組織は、大宝律令制定直後は二官八省一台五衛府に整備された。
その後　兵部省の中に造兵司が設けられ、内兵庫が置かれる。　武器の生産と管理する内兵庫は 808 年に改編して左右兵庫寮として新設、８９６年には左右兵庫と造兵司・鼓吹司を併合して左右を統合して一本化された大寮「兵庫寮」が新設される。したがって、残念ながら　神戸と関係して　「兵庫鎖」の名が起こったわけではない。

### 2.　兵庫県の名に見られる「兵庫」のルーツ

「兵庫鎖」の名前は大和王権の武器を生産管理する兵部寮から　この鎖の技術が広く伝わったことから起こったようである。ならば 何故 この神戸周辺を「兵庫県」というのだろうか‥‥
それは、天智天皇の時代に唐や新羅との戦いに備えるため全国に武器庫が建設され、特に摂津・播磨の国境　須磨の関を守るため、現在の神戸市兵庫区に兵器庫「兵庫」を置いたのが地名になったと考えられている。

摂津・播磨の国境　旗振山から　須磨海岸を望む

ちょうどすぐ横を明かし大橋がわたる幕末の舞子砲台跡　2007.3.10.
この対岸　淡路　松帆の浦にも砲台があり、また　稲妻型の砲台の護岸は五稜郭と同じ設計

「兵庫鎖」の話を教えていただいて　昔の記憶をたどりながら　何やかや引っ張り出したり、インターネット調べたり、調べてみると面白い話がぞくぞく。
やっぱり、　ものづくりの技術は奥が深いというか　技術伝承がそのものだけにとどまらず、広がってゆくこと感じました。
最近　あまりにも　薄っぺらで　うのみにしてしまうことが多い時代。
落ち着いて　考えてみたり、そのフィールドに　直接　出かけてみるのも面白い。
今回　神戸市埋蔵文化センタで鉄製の兵庫鎖の展示を発見したのが、ラッキーでした。

2007.3.20.　神戸にて　　Mutsu　Nakanishi

**【参考】**

## 兵庫の名の由来

兵庫県の「兵庫」は、兵器を格納する倉庫である
「兵庫(つわものぐら)」にちなんでいます。

| | |
|---|---|
| 645年 | 大化の改新の際、播磨国境の須磨関を守るため、現在の神戸市兵庫区周辺に兵器庫「兵庫」が作られる。 |
| 1105年 | 土地寄進状に「兵庫庄」が初めて使われる。 |
| 鎌倉時代 | 奈良時代から「大輪田泊(おおわだのとまり)」と呼ばれていた兵庫荘の港は、鎌倉時代になると「兵庫の津(ひょうごのつ)」と呼ばれるようになる。 |
| 明治元年1月(1868年) | アメリカなどと貿易を行う開港場として兵庫の津が指定され、周辺の旧幕府領を管轄する兵庫鎮台が置かれる。その10日後に兵庫裁判所と改称される。 |
| 明治元年5月23日 | 兵庫裁判所が廃止され、県庁が置かれる。そこから「兵庫県」という名称が誕生。 |

国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所「ひょうご道」より
http://www.hyogo.kkr.mlit.go.jp/kankou/michi/yurai/index.html

# 5.　この春　風来坊で感じた地方の疲弊　　2007.6.1.

地方格差・公共交通の崩壊がすすんでいます　そして　中央では絶対見えないほころびが・・・

5 月の連休あけ　久しぶりに　夜行バスに乗って新潟　柏崎・弥彦山へいってきました。
何年ぶりになるか、随分座席数が減り、快適でした。 でも　地方が疲弊している。
中央の犠牲に地方がなり、中央では見えないほころびが、随所に見えている。
今頃　なにを言ってるんだと言われそうですが‥‥　こんなにすごく感じたのは初めて。
車では絶対わからない　テクテク歩きの風来坊だからこそ　見えたのでしょう 。
でも　地方へ行くと　本当に親切を肌で感じるぬくもり。
まだまだ　見直しの舵がきれるのでは・・・・・
　またまた　気楽な風来坊のたわごとです

鉄道は新幹線・特急を使わないと路線がズタズタで、だめになりましたね。新潟からの帰りに、午後　糸魚川に立ち寄って、神戸まで　鈍行で・・・とトライしましたが、またも　福井で特急に乗らないと神戸に帰りつかず。 また、今回　新潟長岡・柏崎周辺に行って　電車・バスの本数　接続など、市内や隣町にも行けないといった事が随所に。
以前は何とか車を使わずとも行けたところが、もう車でないと行けなくなっています。
バス・鉄道は公共機関の役割をはたせず、東京や大阪など幾つかの大都会のためにのみ便利が良くなって　地方がこんなに不便になっているのか･･･とあからさまに見えてきてビックリです。
一方　便利になった大阪でも　中心を抜けて　郊外にでるとまた　これも同じ。 早朝　福知山線篠山で起こったダイヤの乱れが　何で　午後　しかも遠く離れた桜井線や奈良線の遅れになるのか・・・
一旦　混乱が起こると福知山・学研都市線をつなぐ大阪東西線では中心部の大阪を抜けてしまうと、端の方では、中心部の指令にしたがって、到着時間や電車の行先がくるくる変わり、運転する方も　もう　やっられるか・・・」なのでしょう　行き先表示板も変更せずそのまま走るので　余計に混乱・・・。　まあ　人が少ないのでええようなものの・・・・。
運転管理・安全管理では　首を傾げたくなる有様。
大阪や東京のど真ん中では絶対に見えない光景が、末端に行くと見えてくる。
なんぼ　偉い人が　中央で報告を聞いたり、外部から人招いても　自らが変わらないとだめだと思います。
自分はかわらずに、ほかに変われ　変われ。これが　今の日本的企業の構図なのでしょう。
昔は日本的といえども　トップ交代の責任が問われ、新体制の中での話だったのですが、今は　「きっちり　対応が進むのを見届けないと無責任」との屁理屈が通る。
昔は政治家の言い分だったのですが、今や地方と中央　企業・役人にまで蔓延・・・・　ほんまにやってられるか・・・・である。まあ　JR 西日本の中身もこんなとこです。
やっぱり筋の通った理念・信念のぶつかり合い　そんな取組みが本当に待たれる時代になりました。
今がいいのは前代に蓄積された膨大な遺産があるから。　次はもう　なにもなし。　東京サバクの時代か・・・・・

先日　1990 年代「日本の企業が年功序列・従業員重視型日本的経営から株主重視のグーバル・国際市場絶対主義経営に舵をきる」過程での経営論争が経団連の経営者間で戦わされたことが朝日新聞にレビューされていました。
鉄鋼経営の I 氏が経営の基本として　従業員・社会・国家への貢献・責任を論じ、金融・流通の M 氏が株主絶対主義を論じたと･･・・。
その中で　グローバル・株主至上主義経営の中で　社会・国家への貢献・責任は「政治家が考えること。経営者・企業が考える必要はない」と論破されたと報じていました。
そして、その後　日本は大きくグローバル化経営に舵を切ったのであるが、その結果が今である。
どちらがいいかは別にして　急ハンドルのつけは大きい。
社会のひずみ・物づくりの品質・人のつながり　みな　ずたずたで、そのしっぺ返しが始まっている。
多数を頼んだ至上主義。言葉の羅列・刹那主義の代表みたいなもので、まったくつながり・連鎖のない社会が現実である。むかしも建前と本音はありましたが、天井知らずでなかった。

本当に　身の置き所がなくなってきたなあ･････と。
聖書に「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味がつけられよう。」
また、「アブラハムの訴えを聞きいれた神は『その１０人のためにわたしは滅ぼさない』と約束する。
（１０人の義人が圧倒的多数の罪人の身代わりとして立つ）　」
という言葉があるのを教えてもらいました。
グローバル・経営至上主義とはいいながら、欧米にはこの精神・理念が常に歯止めとして働いている。

「自らが　考える」　この姿勢の欠如が歯止めのない社会を生み出していることに早く気づくべきだと思う。
スピード経営・グローバル経営が社会の錦の御旗。でも中身をみればそんな無理せんでも　別の道があるのではないか・・・
ふっと　そんなことを考えてみるのは邪道なのだろうか・・・
そんな　目の向け方する人たちが　生まれないのだろうか････
それが　教育の本質だと思うのですが････
なにか　さびしくなりますが、日本的グローバル・市場至上主義の破綻が中央では見えない。
つくづくそんな感じを　今年の春　風来坊のきままな旅をしていて　感じています。。

2007.6.1.　またまたのジェットコースタ事故に寄せて
Mutsu　Nakanishi

## 6.　８月 広島で感じたこと

### 風化させてはならないのは　何なんでしょうか　2007.8.5.

暑いアツイ　８月5･6日　今年も　クリスチャンの広島の平和行進に参加してきました。
核廃絶・平和への願い・不戦　と　何で広島やねん　とよく言われますが、　やっぱり　行くことが意思表示の一つ。
「風化させてはならない」　とは　多くの人が語るのですが、
「 風化させてはならないのは何なの??　それで　なにになるの????　」　に答えなし。
それを体現するためかなあ・・・・　自分もも変われそうで　また　何かがかわりそうで・・・・・・。
でも　今年ほど　風向きがかわった　と思えることはついぞなし。
「核廃絶　戦争反対　　それで世の中変わるのか」　「核には核を」「非戦では国際協力できない」等々と浴びせ続けられた数々の批判に「平和憲法　かけがえのない命を守ろう　核廃絶の声が　現実性のある声として実感された初めての年に感じました。
被爆62年　被爆体験者　戦争体験者は「今しか　語るときがない。
自分の体験を次の世代に伝えたい。　風化させてはならない。」という。
これは　なんだろう・・・・・と。

最近　若い時とちがって　自分の視点が変わってきたなあ　と感じます。
「会社　都会　そして　IT 社会　集団　」　そんな視点から、若いときには考え及びもしなかった「かけがえのない命」
「次世代の子供たち」が自分の中心にあるように思う。
それが　「人類が生き延びて　世代をつないでゆく　知恵」ではないかと思っている。
解っていても　人に理解してもらえる話　自信もなかったのですが、昨年秋　ノーベル平和賞をもらった宗教人の人たちの話を聞き、　その行動原理が純粋にこれだと知ったこともあって、自分でも意識して　これを原点に思考を始めている。
「平和を祈る　そして　一歩前進」　一人のこの小さな輪が渦となって世界を動かして行けると。
国家・集団の視点が　いまや世界や地球の視点に置き換わっていると。
いやおうなしに　この世界・地球を考えの根拠に　自分の現実を見る感性を最優先にしなければいけないと感じている。
今年の参議院戦の潮流の中にそんなことが　垣間見えたように思う。
「平和憲法を守る　・不戦があったから、日本の豊かな社会が育まれた」などと言うと、何か　好奇の眼にさらされて「平和憲法なんて・・・」「不戦では国際貢献もできない」と反論をくい、現実論ではないと叩かれていましたが、潮流が変わったと感じられるようになりました。

大国の利益優先が　世界で戦を撒き散らし、2 割の人の繁栄の中で　8 割の人が貧困にあえいでいる
繁栄した国が今貧困から立ち上がる人たちの国の手法を取り込んで上前はねて　どないすんねん
中国なしでは食料・日常品は調達できず。　不買をやったって　どうにもならない現実
自分たちの豊かさの中に　いつ自分に降りかかるかもしれない現実を　見なければ・・・・・
他人事で他人にゆだねていたのが寄りかかっていけなくなった現実に
はっと　自分で声をあげねばならなくなってきた。 グローバル化の前に国を超えてどんどん世界が見える。
声高に多数を声高に叫んでいても、作られた多数が　見えてくる現実
やっと　自分の感性と判断が本当に大事な時代になってきました。

今年の広島でこんな話も聞きました。
我々一握りの豊かさの中から生まれた地球環境変化が絶滅の危機を生み出している。
「豊かな暮らしの中で、ちょつと　平和を　!!」　そんな現実を抜け出して
「全力を傾けて、一歩一歩　平和の実現に尽くそう」と。

一番　風化させてはならないのは　そんな「平和への思い・平和への願い」だと感じています。
人類が生き延びてゆく武器は「希求の平和」核廃絶への知恵を働かさないとその先は絶滅である。
本当に　今一人から　こつこつやれば　大きな渦ができる時代へ潮目が変わる節目かもしれない。
馬鹿騒ぎの渦から　自分を取りもどさねば・・・・。
若 者たちの群れの中にも　それを期待したい。

テレビのニュースは　伝える人たちの益々激しくなるおごりの表情と芸能人化 スポーツ番組は芸能ショー
やっている方も　中継している方も　とてもスポーツを愛しているとは思えない。むしろ過剰なアジテイター。
淡々とニュースを伝える平板と批判された NHK のニュースに　また　BS のメジャーリーグ放送の静かな語り口・解説にすがすがしさと新しい顔を見る。最近そんな風に見えて仕方がない。
食品の品質問題　安全と事故　平和と戦　そんな幾多の問題の過程で平然と言われている「風化させてはならない」と。
でも　「風化させては　ならないのは　なんでしょうか」
この答えは　ほとんど無視され、好きなように使われている。
本当に　もう　踊らされないぞ・・・。　「かけがえのない　一人ひとりの命　　それをつなぎたい」
「縄文がえり」　といわれても　そんな感性と判断を磨きたい。

2007 年　8 月 5 日& 6 日　広島平和の祈り・平和行進に参加して
Mutsu Nakanishi

# 7. この夏であった不思議な石　「カンカン石」と呼ばれるサヌカイトと蛇紋岩

## 1. 「カンカン石」と呼ばれるサヌカイト

金山周辺で採取したサヌカイト　　坂出駅の北　縄文のサヌカイトの原産地　坂出の金山

右の写真は山の南　国道 11 号線側からの金山

縄文の各種道具・武器の主要加工加工材料で、縄文人の主要交易品のひとつ「サヌカイト」。
カンカン石と呼ばれ、叩くと「カンカン」と金属音がする。　最近は石琴など楽器にも加工されています。 四国坂出の金山・五色台周辺が大阪河内の二上山と並ぶ縄文のサヌカイト鉱山と聞いて、特に「金山」の名前に惹かれて　坂出の金山に行って、サヌカイトを拾って帰りました。

金槌で岩を叩くと　カーンと金属音とともにスパッと岩が割れて　真っ黒で平坦な破面。おまけにリバーパタン状の破面。　これはもう金属に近いと‥‥。
また、この金山全体の持ち主で、山中でサヌカイト工房を開いておられる前田さん宅で大きなサヌカイト板を叩かしてもらうと　まさにお寺の鐘。　感激でした。
真偽のほどは明らかではありませんが、この山中にある古い金山明神を守る金山神社の祭神は金山彦　また　山の麓近くの集落に鋳物師屋の名がある。　地元の人はみんな　「鉄の話などないよ」といわれるのですが、昔は鉄も出たのでは‥‥‥と。

金山　ゆうの里で
叩かせてもらった サヌカイト製の楽器　まるで　お寺の鐘

坂出駅の直ぐ南東の線路沿いの現在は個人所有の小さな山ですが、ここで採取されたサヌカイトが縄文人の包丁などの道具となった。

坂出駅のすぐ北側　金山から見た坂出と高松の境　五色台　ここでもサヌカイトが出る

四国坂出の金山　縄文のサヌカイト原産地周辺の山中のサヌカイト
ここでは　サヌカイトが溝の土手や傾斜地の石垣などにサヌカイトが使われている

## 2. 炭素を固定する蛇紋岩 炭酸ガスを吸収して地球温暖化対策の切り札になるかも ???

紀ノ川が麓を流れる　紀州富士「龍門山」
この山は鉄やマグネシュウムなどを多量に含む不思議な石　蛇紋岩の山

蛇紋岩の網目の割れ目構造

和歌山県の紀ノ川沿いにそびえる紀州富士「龍門山」は蛇紋岩の巨岩がゴロゴロ頂上部にある緑の山。
蛇紋岩は地中で固まったマントルの成分に近いカンラン岩が地殻変動で細かいひび割れを発生してそのひびに熱水が入り込んで、鉱物質を変化させ、美しい蛇柄文様と光沢を持つので、化粧板として人気がある。
この生成のルーツが示すようにこの石には数多くの鉱物質を含み、蛇紋岩に変質する過程であまった鉄やマグネなどの鉱物質を割れ目に残す。 龍門山の蛇紋岩のごとく、鉄分の析出した蛇紋岩は磁石に引っ付いたり、磁石になっているものもある。

この蛇紋岩の変質作用を調べていて、地中深くにあるこの蛇紋岩帯に炭酸ガスを吹き込んで固定化して地中に貯蔵するシステムが地球温暖化対策の一つとして検討されているという。この作用が蛇紋岩化作用と呼ばれる蛇紋岩変質作用の一つだそうだ。 化石燃料はもう軽減できても使わねば生きられない現代社会　地球温暖化対策のためには大量の炭酸ガスの固定化とその膨大な量の定化したもの貯蔵法の開発が急務。

先端技術と言うと　ついつい　宇宙・ロボット・エレクトロニクス･通信ということになりますが、材料の世界でも地道な研究が進んでいることを知りました。海底に膨大に堆積するハイドライトの活用も同じだそうだ。
そういえば　昔　石油・天然ガスの掘削にインジェクションと称して大量の炭酸ガスふきこんでいたなあ・・・・・と。
これも一つの手段。鉄鋼業はその生産に大量の炭酸ガスの排出をしているが、材料屋の技術が生きるかも知れない。
後進国の炭酸ガスの排出権の売買に奔走するだけでなく、急務な地球温暖化に歯止めが、早くかかればいいなあ・・・・と。 思いもよらぬ材料技術を知りました。

紀ノ川が麓を悠然と流れる粉河の「龍門山」
頂上周辺には磁石に引っ付く巨岩　明神岩　そして、コンパスの狂う磁石岩
不思議な魅力を秘めた蛇紋岩　　そんな蛇紋岩が先端技術として見直されている

# 8.　この秋　感激したこと　おもいつくまま　2007. 12. 1.

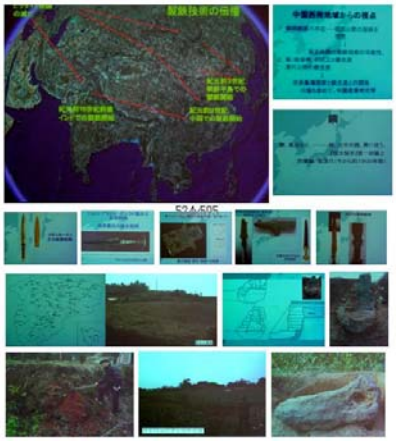
1.　エジプト　ツタンカーメンの鉄につながるかも???　　たたらのルーツである塊錬鉄
2. 月面探査衛星「かぐや」の撮影した「三日月の地球」に感激
3. 大阪の西の守り　四層の天守閣と３層櫓の素晴らしい尼崎城の姿（復元模型）

## 1. エジプト　ツタンカーメンの鉄につながるかも???　たたらのルーツである塊錬鉄

愛媛大学で「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を探る」シンポに参加して

中国の古代初期に金」より「鉄」に価値があった時代があり、その時代の鉄はたたらのルーツである塊錬鉄であると聞きました。　しかも　そのルーツはユーラシアの西端　トルコやエジプトツタンカーメン王の墓からも同じような使われ方をした貴重な鉄が見つかっているという。

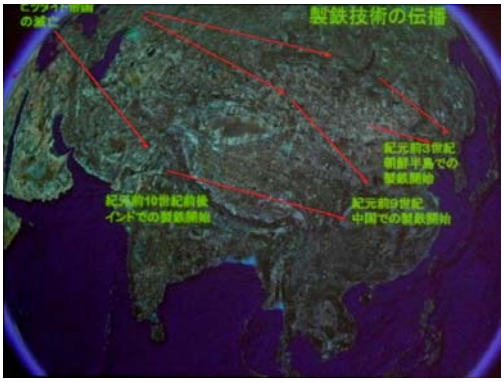
たたら製鉄で製造される塊錬鉄　中国・朝鮮半島にその技術ルーツがあるはずなのにたたら製鉄が始まった頃の中国・朝鮮半島ではそんな製鉄法が見つからず、謎であった。しかし、溶鉄法による鉄の大量生産・大量使用が始まる「秦」の前の時代に塊錬鉄が「貴重な鉄」として使われていた時代があったという。
日本に鉄が伝来してから　約千年近くかかるまで、製鉄が始まらず、大陸では溶鉄法による製鉄法が盛んに行われている時代に製造が極めて難しい塊錬鉄製造法が製鉄法として始まった。
この謎を解く鍵　塊錬鉄が中国の古い時代のごく一時期に見つかるという。
しかも、同じ使われ方がユーラシアの東西端であるという。
たたら製鉄のルーツの謎が解けるかもしれないと、報告されるスライドを食い入るように眺めました。



愛媛大学で「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を探る」シンポ　　2007. 10. 27.　愛媛大学で「中国における鉄の起源と波及」と題して　西からの鉄の伝播に中国西南地域・四川の重要性を報告される村上恭通教授

ツタンカーメンのエジプトやトルコでは　金製の多くの剣の中で一番華やかな「金」飾り柄に鉄の刀身が付いたものが一本だけ一緒にまじっている。
中国でも約２８００年前の西周・戦国時代（鉄の国「秦」の前）　青銅製の柄に鉄製の刀身がつけられたものが、１本混じってみつかる。しかも　これが日本の古代鉄「たたら」と同じ直接製鉄で作られた塊錬鉄製だという。

ユーラシア代理区の東西端で見つかった「金」よりも貴重な「鉄」
これが中国伝来の鉄のルーツ ???



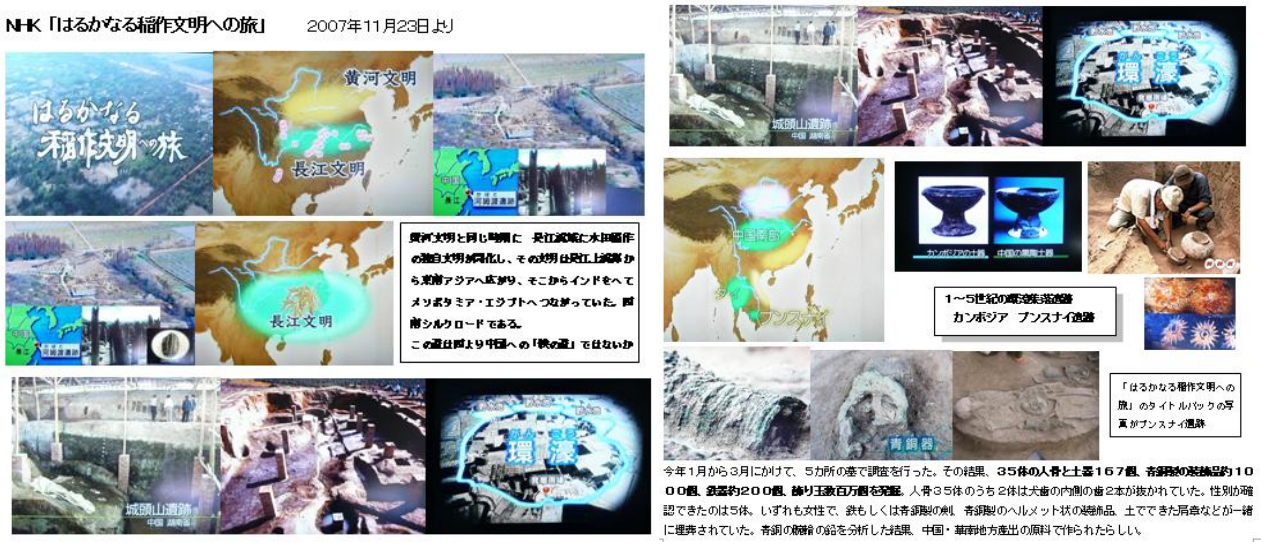

東アジアへの鉄技術の伝播ルート
北のシルクロード・黄河ルートのほか
南のインド・長江ルートがあったのでは???

「秦の時代以降になると　中国は溶鉄法による銑鉄・鋳鉄をつくり、再度脱炭精練して「鋼」を作る溶融製銑・製鋼法で、中国・朝鮮半島の製鉄遺跡からは塊錬鉄の製鉄遺構は見つかっていない。
「秦」以前の塊錬鉄が何処で　どんな風に作られたのか・・・
その伝来ルートの確証はなく、漠然とシルクロード経由で伝来したと信じられてきたが、これも謎のままであつた。
四川盆地の古代製鉄遺跡の共同調査や最近の中国での調査・資料などを踏まえ、西南中国の鉄のルーツをたどってゆくと揚子江から重慶　四川盆地から　雲南　ミヤンマからインドへの道がみえてくるという。
そして、四川盆地での今回の発掘調査で、前漢以前の時代につながる製鉄遺跡が見つかったことから、「秦」に征服される前の時代から　中国の製鉄の中心の一つであった可能性が強いことが垣間見えてくる。

四川盆地から見つかった前漢時代の製鉄炉や大鉄塊の一例

初めて　実物を目にする四川　古代中国の製鉄炉　　本当にそんなに大きな製鉄炉をあやつっていたのだろうか・・・と
これも半信半疑でしたが、製鉄炉がそっくり立ったままで巨大な姿を現したのには　本当にビックリしました。

このシンポジュームの調査報告を聞いて、黄河流域から天山山脈を抜けてゆくシルクロードとは別に「史記」にその可能性が記述されている揚子江・西南シルクロードが存在し、塊錬鉄の技術は中国へ古い時代にこのルートでつたわったのではないか???? の期待。 このルートは弥生の水田耕作　稲の伝播の道にかさなるなあ・・・・と思っていた矢先、NHK「はるかなる稲作文明の旅」が放送され、まさにこのルート上にあるカンボジア　アンコールワットの西北 60km のところで　１～５世紀の大規模な環濠に囲まれた集落が発掘され、しかも多数の墓から　鉄器が多数出てきたという。
日本の弥生とほぼ同じ時代に　そっくりそのまま　水田稲作の集落と鉄が出現したと伝えている。
この鉄は塊錬鉄でないか・・・とその調査結果に興味津々である。




NHK「はるかなる稲作文明の旅」
揚子江・西南シルクロードの上　カンボジアで大規模な環濠に囲まれた集落発掘を伝える

シルクロードといえば　ユーラシア大陸の東西を結ぶ文明　文化の道として　知らない人はいないが、 それ以前に　もう一本　ユーラシア大陸の東西を結ぶ文明　「鉄の道・水田稲作伝播の道」があった。
そう考えるとうれしいかぎりです。
　愛媛大学で「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を探る」シンポでは、今まであまり知られていなかった揚子江流域の四川盆地の製鉄遺跡の発掘調査結果や黄河文明に勝るとも劣らない長江文明そしてそれに関わる金属器・鉄器の関係

史記など中国の資料が伝える中国古代鉄など　今まで知らなかった中国の古代製鉄についての数々の興味ある報告が日中の共同研究成果として報告された。
知らないことばかりで、本当に貴重な一日。
日本のたたら製鉄を考える上でも　きわめて有益な事実ばかり。まだ　きっちり租借できていませんが、いただいた資料や書き写しメモなど読み返しながら、自分なりに　纏めてみようと思っています。

## 2. 月面探査衛星「かぐや」の撮影した「三日月の地球」に感激

日本の月面探査衛星「かぐや」から撮影した「三日月のかけた地球」の写真や雲の渦とともに青みを帯びた地球の写真が広く TV や新聞で報道された。
今まで見せられてきた衛星写真の地球はいつも真ん丸。　頭では理解していても　ちょっぴり　疑問の気持ちもあり、半信半疑でしたが、かけている地球を見て、月の周辺から見ると　やっぱり「地球」も欠けて見える。
ほんまに　そんな中に　住んでいるのだと・・・・・

日本の月面探査衛星「かぐや」から撮影した「三日月のかけた地球」

白雲と青い地球
今までは　google earth をみても　画像処理しているのだと思っていましたが、
月のクレータの荒々しい表面と対比して、なんと美しいことか
ほんまにこんなきれいな天体なんだと・・・・・・・
こんな複雑な美しい地球　ほかにはない天体に住んでいる。
かけがえのない地球
みんな　どこで　何やっていても　　地球人だと・・・・・と
初めて実感しました。

## 3. 大阪の西の守り　四層の天守閣と3層櫓の素晴らしい尼崎城の姿（復元模型）

小さいときから　尼崎には城があり、司馬遼太郎氏の講演で「素晴らしい城」と聞きましたが、残念ながらその雄姿を示した絵も城郭の精密図もなく、その姿を見ることはできない・・・と聞いてきました。
そして　関東にいた２０００年　千葉県佐倉の歴史民俗博物館で　尼崎城の描かれた西国街道の絵図をみて、いたく感激したことがある。
４層の天守閣が描かれていて　これほんとうだろうか・・とその姿に半分疑問も持っていました。

● 尼　崎　城
僕の故郷　尼崎で　小さい時に聞いた３櫓と連立して４層の天守閣を持つ美麗な「尼崎城」の絵図を千葉県佐倉市の歴史民俗博物館で見つけました。
大阪の押さえとして　石高が小さいにもかかわらず勇壮美麗な天守閣があったと聞きました。
実際に姿が描かれた絵図を初めてみました

国立歴史民俗博物館で見た絵図に描かれていた尼崎城
2000年1月　千葉県佐倉市で

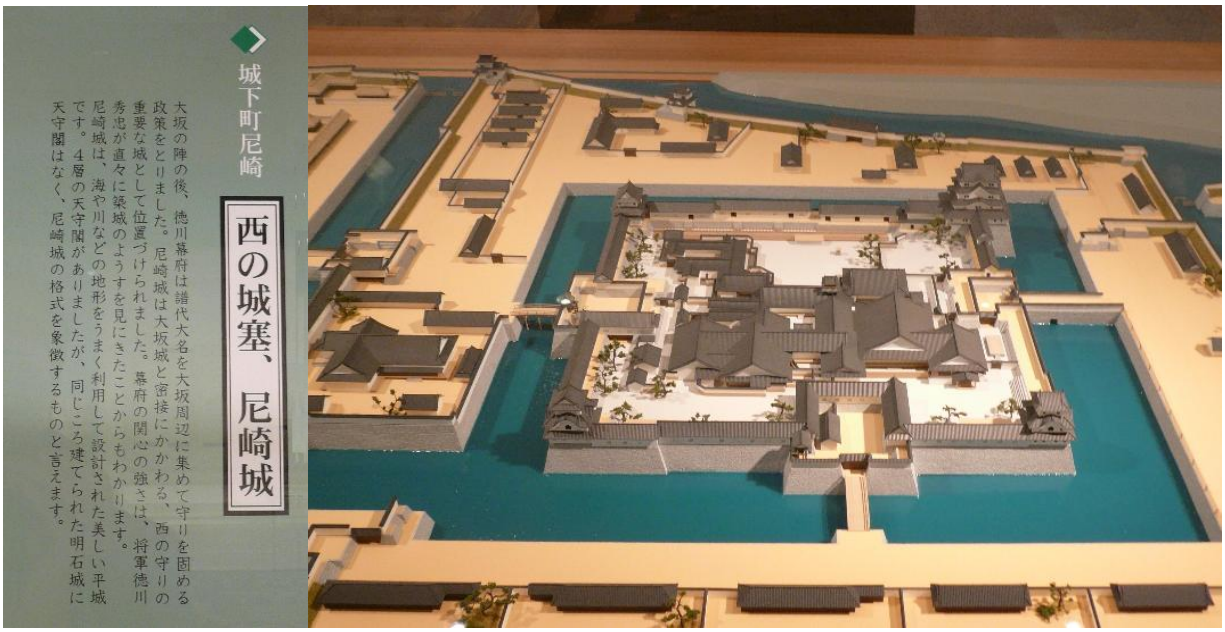
ところが、すごいもので、色々な古文書・絵図などをつなぎ合わせて、精密に尼崎城を復元した模型が尼崎信用金庫博物館にあると聞いて見にいってきました。

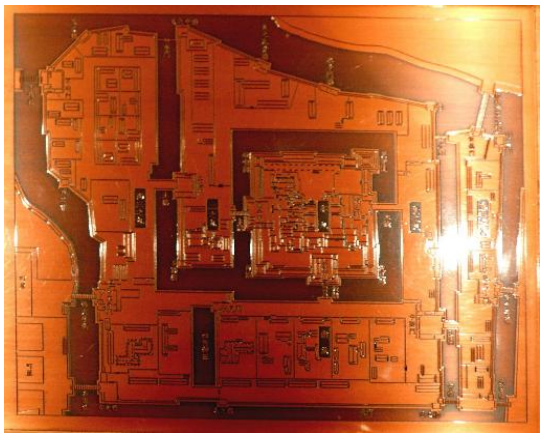
４層の天守閣と３層の櫓が四方を取り囲んだ本丸、海の出口である自然の川を利用した掘で二重に取り囲まれて海辺に立つその美しい姿は海からも眺めら、西からの目印でもあったという。

以前見た歴博の絵図そのままの姿が説明書に書かれている。私はこの景色みたぞ・・・・と。

本当に４層だったのです。

そればかりか　すごいユニークな本丸設計　さすがに大阪城の西の守りを果たした自慢できる「城」だったのです。



近世尼崎城は1617（元和3）年、幕命によって築かれた。

本丸は方形で、四隅に四重天守と三重櫓三棟を置き、周囲を多聞櫓（長櫓）・塀で囲んである。本丸は二ノ丸、松ノ丸、東三ノ丸、西三ノ丸,南浜で取り巻き、要所に二重櫓を配したり、門を枡形に構えるなどして防備を固めている。

築城技術の最も発達した時期に建てられたもので、徳川将軍の江戸城・二条城や御三家の名古屋城に匹敵する施設、内容、規模である。天守・櫓・門などは古図や文献資料から建築構成が知られ、当初から存在したと考えられる。

本丸御殿は1846（弘化3）年に焼失したが、間もなく再建され、敷飾り（上段・床・欄・付書院）や特有な平面で構成した広い書院を中心に、玄関・金之間・上料理の間・御居間・茶之間・台所など多くの建物が造営された。復元模型を見ると、塀を螺旋状にめぐらせた縄張形式の、いわゆる典型的な「平城」であることがわかる。そして、四面同形の整った外観を持つ天守をはじめ、隅櫓、厳めしい門、堅牢な石垣、計画的に配置された 殿舎・侍屋敷・会所・米蔵・馬屋など、往時の雄姿を偲ぶことができる。

監修　松岡利郎

尼崎城は、1873（明治6）年の　廃城令により、天守閣、本丸御殿をはじめとする建築物が大蔵省（現財務省）から民間に払い下げられ、さらに石垣や堀なども近代の尼崎が工業都市として発展するなかで姿を消してしまった。今では北城内、南城内という地名、学校名にその名残をとどめているに過ぎない。

しかし、尼崎城と同じ時期にすっかり姿を失ってしまった各地の城に比べ、尼崎城の場合は天守閣をはじめとする建築物、敷地の形態、規模を記した絵図、文書が多く伝えられている。早くには尼崎出身である萩原一青の城絵図による復元もあった。

今回の尼崎城復元模型の制作にあたっては、尼崎城下絵図・尼崎分間絵図（二巻、表／裏）・本丸御殿部分間取図・本丸御殿屋根部分図（兵庫県立歴史博物館）など、桜井神社に残されている桜井松平家の資料を参考とした。

侍屋敷については、各地に残されている侍屋敷城郭古写真などを参考に、五軒屋の一つについては尼崎藩家老城家文書（旧尼崎市立中央図書蔵）の中屋敷平面図を参考に復元している。

監修　青手木　正